留学報告書
～人生紀行　カナダ編～

マキーワン大学
外国語学部生（中期）

本来私は、留学に派遣されるはずのない学力でした。留学が決まった当初、嬉しさ半分、何かの間違いで選ばれたのではないか、という不安半分が混じり、複雑な気持ちで過ごしていたことを覚えています。しかしこの３か月半、短い間ではありましたが自分史上一番努力をし、また一言では表せられないほどの素晴らしい経験を得ることができました。

私はカナダのエドモントンに位置する、マキーワン大学に中期留学をしました。大学の周りは駅やレストラン、少し行けばダウンタウンと、非常に立地の良い大学でした。留学前も自分なりに英語の練習を頑張っていたつもりではあったのですが、いざカナダに来てみると、ネイティブの話す英語と YouTube 上にある英語学習者用の動画では、速さも難しさも違いとても驚きました。到着して 3.4 日ほどは一息つく暇もないほど、新しい出会い、生活、英語と変化の目まぐるしい日々を過ごしました。最初の頃はホームシックにもなりましたが、環境の変化に慣れるのに必死で、それどころじゃない、と自分を律することで対処することができました。

最初のオリエンテーションの日は今でも鮮明に覚えています。この日私は自分の語学力の乏しさをひどく痛感しました。周りはインターナショナルの生徒しかいないため、みな英語ネイティブではありません。それにも関わらず、お互い英語を流暢に使い話している様子を見て、私もと思い、話しかけました。しかし結果は惨敗で、話している内容もわからない、聞き取るだけで精一杯、where did you live in Japan?でさえ聞き取れない状況で、自信を大きく失いました。ルームメイトともうまく意思疎通ができず、カナダという大国に１人だという現実にかなり堪えていました。そこで精神的な安定につながったのは、周りの友人のおかげです。長崎からきた日本人留学生や、ルームメイトとその友人たち、クラスメイト。ありがたいことに私はたくさんの素敵な友人に囲まれたと思います。

授業について。私の履修した授業は EAL だったため、現地の大学生だけでなく様々な年齢層の生徒とともに学習しました。英語４技能に加えて発音の授業があり、朝９時半から２時までの時間割を月曜日から金曜日まで受けました。クラスは 25 名ほどで私が一番年下だったため、とてもいい環境でした。年齢層だけでなく、国も様々だったのでその国ならではの言語や食、文化を体験することができました。その中でも私はウクライナから来た生徒と仲良くなり、休日にもよく遊ぶような仲になりました。

授業は、私のレベルにあった内容を受けることができました。特に発音の授業は一番実践的で身になりました。スピーキングは IELTS のテストを使った学習をし、他にもノートテイキングスキルを磨いたり、レベルアップした文の練習をしたりしました。しかし、ディスカッションやスピーチの授業はありませんでした。先生は日本が大好きで、よくかわいがられ、よく気にかけてくださいました。

最初の頃は英語で受ける授業に慣れておらず、終わった後はとても疲れてしまっていたのですが、日を追うごとに英語に耳が慣れていき、何を言っているのかわかる感覚が

とても嬉しかったです。私には常に向上心がありました。そのため授業中も常に吸収できることはないか探して過ごすようにしていました。クラスメイトとも打ち解けてきたあとは、休み時間もお話をしたり、写真を撮り合ったりたのしく過ごすことができました。本当にこのクラスでよかったと思います。

寮について。マキーワン大学の寮は大学のすぐ近くにあり、通学にとても便利でした。私は２人部屋だったので、ルームメイトがいました。私がこの留学生活が最高のものだったと言えるのは、このルームメイトのおかげでもあります。インド出身の彼女は、とても気さくで優しく、カタコトの英語を話す外国人の私にも分け隔てなく話してくれました。彼女のおかげで友人の輪が広がり、晩や休日には友人と集まって夜遅くまで遊ぶこともありました。

ご飯については、食堂がなかったため自分自身で用意する必要があったのですが、近くにスーパーマーケットがあったため、特に不自由はありませんでした。しかし、そこは値段が高く、節約のためにバス一本で行ける値段の安いスーパーに行くようにしていました。

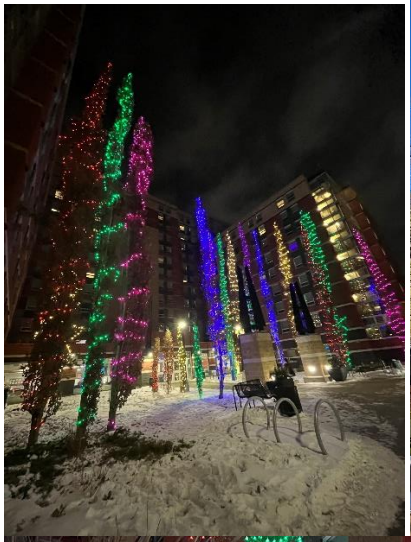
部屋は広く、ベッドルームが２つ、トイレ、シャワー、キッチンなどは共有でかなりいい環境だったと思います。各フロアに２つずつ、共有スペースがあったのでそこに集まり、カードゲームをすることもあります。

一番印象に残っていることは、ルームメイトが、私が落ち込んでいることにすぐ気づいてくれたことです。今まで通りで接したつもりではあったのですが、「どうしたの？何かあった？」とすぐに声をかけてくれ、とても驚きました。その時私はうまくいかないことが続き少々疲弊していたのですが、彼女のやさしさに触れ、人とのつながりはこんなにも癒してくれるのだなと気づくことができました。

休日は、日本人の友人と過ごすことが多かったと思います。彼女は私と同級生だったため、すぐに仲良くなりました。二人で遠いショッピングモールに行って遊んだり、図書館で勉強をしたりして過ごし、文化の違いを堪能しました。

さらに、クラスメイトと遊ぶことも多々ありました。日本のアニメや漫画、文化が大好きな生徒だったため、日本のラーメンやお寿司を食べに行きました。さらに彼女の家に招待され、ウクライナの伝統料理、ボルシチとヴァレニキに挑戦しました。久しぶりの家庭料理は温かく、よい思い出になりました。

他にも、”Language exchange”という互いの言語を教えあうコミュニティーに参加し、現地の日本に興味のある生徒と仲良くなることもできました。また、バレーの試合を見に行ったり、ハロウィーンの仮装を楽しんだりと、毎日楽しく過ごすことができました。

12 月ともなると、もうすこしで帰国という事で、寂しい気持ちになることが多かったです。お世話になった人たちに手紙や折り紙、お菓子などを用意し、感謝の気持ちを込め渡しました。帰国１日前には、寮の友人を集め写真を撮り、別れを惜しみました。“惜しむ”という表現はとても難しいものだと思います。あとから当時のことを思い返しても、やはり少しテンションが薄れるわけなので、この一瞬一瞬はとても大切です。写真や動画では語りきれないほどのいろいろな思いが詰まった瞬間がそこにはあります。いい経験や思い出はすぐ思い出せるように残しておきたいものですが、その時だから鮮やかに輝く瞬間がそこにはあります。時間は経ちますが、強い思いがそこにあります。思い出はスマートフォンの中ではなく心の中にあるものだと学ぶことができました。

最初の環境は確かに厳しいものでした。初めての海外、日本人が少なく、周りはネイティブ。寮という狭い世界、孤独感、英語を伸ばさなきゃという強迫観念。しかし、私の英語はゆっくりではありますが、着実に伸びていったことを実感しています。そして、自分と向き合う時間がたくさんありました。周りは優しく、いつも気にかけてくれる。会えば、Hi!と声をかけてくれる。居心地が悪くそわそわしていたら、ここに居て、と言ってくれる。日本に帰らないでと抱きしめてくれる。困ったときは一緒に考えてくれる。元気のない時はどうしたのと聞いてくれる。ほしいものを言ったらすぐに叶えてくれる。初めに、本来来るべきではなかったと述べていますが、今はちがいます。私はこの愛おしい人々に出会うために、そして自分を成長させ視野を大きく広げるために選ばれたのだと思います。すべてのことには意味があると信じています。私はカナダに呼ばれたのだと思います。